

佐渡におけるエコツーリズムの展開と環境保全 ：生物多様性保全と持続可能な地域発展

2015年3月

*加藤成貴（法）、沖星歌（法）、稲村行真（法）
高橋潤哉（経）、北野亜衣（経）、瀬尾千尋（総政）
（中央大学環境 FLP ゼミナール A *ゼミ代表）

はじめに

地球温暖化や森林伐採、砂漠化、野生動植物の絶滅など、現在地球を取り巻く環境は悪化の一途とたどっている。そのため、日本を含めた世界各国は環境問題の解決に向けて取り組みを強化している。また、国家に限らず、例えば世界遺産の制定など、NPOやNGOによる取り組みも盛んになっている。その一方で、日本では少子高齢化、地方の過疎化など国そのものの成り立ちに関わる問題も深刻化し、人口減少に歯止めがかからず、消滅が予想される自治体すら存在する。

そうした中、佐渡市は、トキを中心とする生物多様性の保全を重点施策とし、交流人口の増加を通じて、人口減少などの課題に取り組んでいる。本研究では、環境保全の仕組み自体が、観光による地域振興につながるという「エコツーリズム」の観点に注目し、どのような問題が存在し、どうすれば解決方法を見出すことができるのかについて検討を行った。

Keywords:生物多様性保全, トキ, エコツーリズム, 持続可能な観光

目次

第1章	目的と構成
第2章	佐渡の現状と課題
第3章	先行研究
第4章	生物多様性保全とエコツーリズムの展開
第5章	まとめと残された課題
参考文献	
資料	

*本研究は、平成26年度佐渡市生物多様性学術研究等奨励金の補助を受けている。研究の推進に当たって選出いただいたことに記して感謝申し上げます。

第1章 目的と構成

本研究の目的は、佐渡市において、エコツーリズムによる地域発展及び持続可能な観光開発を達成するための政策はなにか、を検討することである。エコツーリズムは、本来、観光開発自体が環境保全につながる形態の観光である。その意味で、佐渡市では、トキを生物多様性の保全の象徴として前面に出し、観光発展をその保全につなげていく、エコツーリズムの本旨にそった発展が求められている。

トキは、特別天然記念物に指定され、2003年に日本国内で野生絶滅した。だが、現在日本で唯一佐渡に生息しており、積極的な繁殖・保全活動により2015年2月13日現在で177羽の放鳥に達成している。トキを野鳥として観察できることは貴重なことであり、その保全活動が観光客誘致と地域発展の可能性をもっている。さらに、2010年に佐渡金山が世界遺産暫定リストに追加され、また、2011年には、佐渡における「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」をはじめとする持続的な環境保全体制が評価され、FAO（国連食糧農業機関）が提唱している世界農業遺産（GIAHS）に認定された。こうした努力にもかかわらず、佐渡市の観光客数は減少傾向にあり、平成3年の約120万人から平成23年には50万人へと半減した。また、季節変動の影響を受け冬季の観光客数は伸び悩んでいる。

佐渡市の自然、生物多様性をどう活かし、観光発展及び地域発展にどう結び付けていくかが重要な課題になっている。本論文では、佐渡市におけるエコツーリズムの発展可能性の検証を通じて、保全活動をどのように観光に結び付けていくかを検討する。第2章では、佐渡における現状を把握し、佐渡市の行政計画等から課題を抽出する。第3章では、生物多様性、エコツーリズム、持続可能性の3点から先行研究をレビューし、第4章において、インタビュー、アンケート調査をもとに、佐渡におけるエコツーリズムの課題と可能性を議論し、観光発展のために施策を検討する。最後に、第5章において、論文の結論を与え、残された課題を述べる。

第2章 佐渡の現状と課題

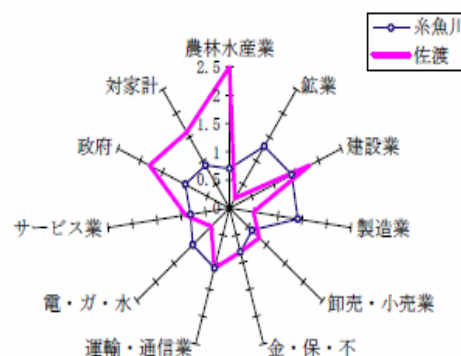
2.1 佐渡の現状

佐渡市は、新潟県の佐渡島（さどがしま）1島からなる市であり、2004年（平成16）、両津市および佐渡郡の相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂町、赤泊村の1市7町2村が合併し発足した比較的新しい自治体である。直江津－小木、寺泊－赤泊、新潟－両津での定期航路があり、

とくに新潟－両津間では一日平均十数本の定期運行が続けられている。人口は昭和 35(1960)年の 11.3 万人から以来減少し続けており、平成 22(2010)年時点で 6.3 万人となっている。厚労省人口問題研究所の推計では、2040 年には、人口は約 3 万人へ半減するとされている。世帯数も 2.5 万戸前後で推移してきたが、平成 22 (2010) 年には 2.4 万戸を下回った。人口減少に伴い、1 世帯当たり人員も減少し続けている。人口の減少は経済活動並びに地域活動の停滞に大きく影響するため、人口定着に向けた取り組みが急務となっている。

新潟県の地域振興局資料に依拠し¹、佐渡経済のいくつかの特徴を明らかにしよう。まず、就業者一人当たりの市内総生産額、農業粗生産額、ならびに製造品出荷額等の値は県平均よりも低く、住民一人当たり所得水準も低位である。純生産額ベースでの県に対する特化係数は、図 2-1 にあるように、農林水産業、政府、対家計サービス、建設業と高い。第一次産業については、就業者構成比

図 2-1 佐渡の特化係数



(出所) 脚注 1 による。

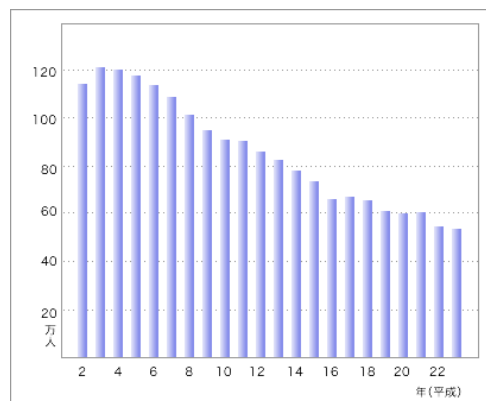
で最も高い。総農家数を総世帯数で割った農家率も 34.1% (2012 年) と高い。ただ、基幹的農業従事者の農業就業者数に占める割合の高さ (60%)、基幹的農業従事者で 60 歳以上の占める割合は 80% を超えており、かつて佐渡の基幹産業であった農林水産業の担い手不足が深刻な状況となっている。農産物を品目別特化係数で見れば、果実、米が高く、この分野での競争力の維持、向上が必要である。第 2 次産業については、食料品、木材・木製品、ならびに窯業・土石の割合が高く、佐渡市の 5 割を占めている。食品加工などは、後述の観光とも結びつく重要なファクターであるが、全体として小規模で、従業員ベースでも事業所ベースでも付加価値額は低位である。高付加価値をめざす新たな製品開発などが求められる。第 3 次産業就業人口は昭和 55 (1980) 年以降、約 2 万人程度で推移しているが、就業人口の全体に占める割合は増加し続け、平成 17 (2005) 年には 54% を上回っている。

観光に関しては、まず、繁閑指数が県全体の 1.5 程度に対して、佐渡市では約 5.0 と極めて高く、季節変動が大きいことがわかる。新潟県全体では、冬も比較的観光客を呼び込んでいる (秋シーズンよりも多い) のに対して、季節対応に苦慮している実態がある。佐渡市への来訪目的も、名所・旧跡、自然環境、

¹ 新潟県地域振興局 (地域振興局・事務所別の経済・人口の現状分析 (http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Simple/747/271/6chiiki.pdf、2015/01/15 アクセス))

文化施設で約 5 割を占めているのに対して、県全体が、温泉、産業観光、ならびに祭りイベントが上位を占め、県とは異なる観光目的をもった観光が行われていることがわかる。さらに、佐渡市は、離島の特性もあって、県外からの観光客が約 6 割（県全体では、約 4 割）と多い。佐渡市の観光客数は図 2-2 にあるように年々減少傾向にあり²、平成 3（1991）年の 120 万人をピークに、近年では 55 万人程度となっている。

図 2-2 佐渡市の観光客数の推移



2.2 課題の抽出

前節で示した佐渡の現状をふまえ、その課題を「観光」に絞って検討しよう。平成 22（2010）年から 26（2014）年までの「佐渡市総合計画～基本計画（後期）～」では、以下のように述べられている³。

「佐渡は、豊かな自然や薫り高い文化が集積し、多くの観光資源に恵まれています。観光客の入込み数は平成 3 年の 121 万人をピークに年々減少し、今なおその傾向に歯止めがかからない状況が続いています。その原因として、ライフスタイルや価値観の変化から旅行形態が団体旅行から個人やグループ旅行に変化してきたことに十分対応できなかったこと、海路に頼らざるを得ない佐渡観光において、移動にかかる時間やコスト面からくるハンディを克服するような魅力や特色を打ち出せなかったこと、全島あげての一丸となった観光客へのサービスが行われてこなかったことなどのほかに、長引く景気の低迷の影響もその一因と考えられます。このことから、本市の観光振興には個人のライフスタイルや価値観を把握した上で、潜在的なニーズを探り、本市独自のポテンシャルを活かした、新たな観光施策が求められている中、佐渡観光推進戦略会議を設置し、中長期的な展望に立った事業及び即効性のある事業の展開を図り、佐渡観光の活性化に向けた取組を進めています。」

佐渡市の基本計画を踏まえたうえで、まず、本論文で展開する生物多様性の保全と佐渡市の観光発展の方向性を明確にしておく。それは、佐渡市がめざす先端的な生物多様性保全を軸に踏まえ、その保全が佐渡市の自然環境保全と文化的景観の維持につながり、結果的に、観光発展による地域開発につながるという、エコツーリズムの推進を目指す視点である。生物多様性保全の諸施策は、

² 年間観光客数の推移による（佐渡市 HP https://www.city.sado.niigata.jp/admin/stat/ot_kankou/index.shtml 2015/01/13 アクセス）

³ 佐渡市 HP（<http://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/soukei06/10pdf.shtml> 2015/01/12 アクセス）。

住民、行政、事業者との密接な連携によって計画、実行されなければならないが、佐渡市には、トキの保全を通じて十分な認知度があり、保全が生活や産業展開につながる素地がある。

その上で、より具体的な観光展開を図るべき課題として、第一に、宿泊施設の競争力の低下などの影響で、各ホテルの独自性が薄く、サービスの質の低下を招いている点である。この点は市役所の方のインタビューからも読み取ることができた。この点に関しては、第4章で述べる。第二は、観光シーズン以外の目玉がないという点が挙げられる。佐渡市はシーズン外の観光客誘致をより積極的に展開すべきと考える。前節でみたように、佐渡観光は強く季節性の影響を受けている。問題は冬の観光客数の少なさである。この点をもっと考慮すべきである。第三は、「トキ」を観光発展にどう生かすか、という点である。トキを観光発展に生かすために現在個体数の回復が図られている。トキの繁殖・保全は順調に進んでおり、平成26(2014)年10月現在約150羽まで個体数が回復し、今後300羽まで増やす計画である。日常的にトキを目にする機会が増え、自然の状態を体験できることは、観光客にとってプラスである。トキを保全しながらどう観光発展に結び付けていくかは、その具体的施策を含め重要な課題である。その他、個人・グループ観光への対応、より魅力的な島内回遊型の観光地形成、よりよい「おもてなし」の溢れる観光地形成など多くの課題があり、解決が求められている。

本論文では、以上の課題を踏まえ、解決へ向けた施策を政策提言の形でまとめる。



(写真上 京王線内の佐渡準市民のPR)

第3章 先行研究

2章で指摘したように、佐渡島は近年、観光客数の減少や人口の減少、またそれに伴う地域の今後の衰退が問題として挙げられる。そこで、以下、環境保全、観光政策、持続可能な地域発展の三つの観点から先行研究を分析する。

中村俊彦(1997)によると、トキの生活環境は、ドジョウやタニシなどの小動物が豊かな水田環境と子育ての為の森林環境とのセットを必要としており、両種とも伝統的農村・里山自然の生態系によって個体群の維持及び種の存続がはかられてきた動物といえる。したがって、トキを保全・繁殖することは、農地をはじめとする自然環境の保全が、良好な生物多様性にとって不可欠であると論じている。また、本田(2009)によると、佐渡市全域住民のトキに対する関心は高く、また、アンケート回答者の80%がトキの生息に肯定的であり、住民は

トキの放鳥についても肯定的に受け止めている。このように、佐渡島において現在進められているトキの保全政策は、地元住民の賛同も得られ、そして他の生物多様性保全にもつながる環境保全政策と言える。

しかしながらその一方で、佐渡市企画財政部(2009)が示すように、地元住民は佐渡への来訪者に伴った経済交流による地域の活性化を望んでいるものの、本田(2009)や本田・林(2009)で指摘されているように、佐渡市においては、トキは町のシンボルであるという認識が強く、トキを生かして経済発展や観光発展を推進していくという意識が少ないように思われる。つまり、トキをはじめとした保全政策と観光を生かした地域活性化に対する個々の議論はなされているものの、両者を結び付ける視点が不十分で、現実的な施策へと繋がる観点が弱い。つまり、佐渡市において、生物多様性の保全行動や政策をどのようにして観光発展や地域の活性化に結び付けていくかの議論が十分とは言えない。

以上みてきたように、これまで、生物多様性の保全と佐渡における自然環境の維持・整備については研究がなされ、他方、観光発展に関する計画策定や、地域活性化における観光の在り方に関する提言はいくつかなされてきた。問題は、生物多様性や自然環境の保全と、観光発展による地域開発をどのように進めていくかという視点が求められているという点である。そこで、本稿では、環境保全を行ない、協力し参加すること自体が、観光発展につながるという「エコツーリズム」の本旨にそって、どのようにしたらトキの保全をはじめとした生物多様性保全政策が持続可能な観光発展、地域振興につながるのかを検討する。

第4章 生物多様性保全とエコツーリズムの展開

4.1 調査の目的

本調査の目的は、佐渡市において、エコツーリズムによる地域発展及び持続可能な観光開発を達成するための政策はなにか、を検討することである。すでに述べたように、エコツーリズムは、観光保全に向けて、観光開発自体が環境保全につながる観光の形態である。その意味で、佐渡市では、トキを生物多様性の保全の象徴として前面に出し、観光発展をその保全につなげていく、エコツーリズムの本旨にそった発展が求められている。生物多様性の保全が観光発展にどのようにつながっているのか、その現状を把握し、施策につなげていくために、本論文では、行政へのインタビューと観光客アンケートを行い、分析を行った。

4.2 行政インタビュー

インタビューは平成 26 (2014) 年 10 月 30 日 9 時 30 分から約 1 時間半実施した⁴。以下、第 2 章において述べた課題を念頭に、要点をまとめる。

第 1 に、トキの保全を観光発展にどう活かすか、という点である。生物多様性保全を、観光を含む地域発に活かすためには住民の協力が必要不可欠である。トキに対する住民意識は、先行研究ではおおむね好意的であるとされているが、地域によっては、住民たちの間に差が生じている可能性があり得る。その差は、従事する産業と保全のつながりなどの差の他に、幼いころに受けた教育の違い、トキなど佐渡の自然に関わる広い意味での、環境教育の違いに起因することも考えられる。たとえば、旧新穂村ではトキについての学習が盛んで、ビオトープなどもあり、比較的、生活とトキが密接な関係にある。「相川の小学校は金山」というように、地区によってそれぞれ特色のある事項が教材になっているが、佐渡市全体を郷土として一体的に感じるように、小学校の発表大会を市が開催するなど、生物多様性の保全の重要性と社会との関連を共通の事項として学ぶことが重要であると思われる。実際、金井地区や波多野、佐和田では、近年になりトキの飛行が確認されるようになり、農業に悪影響を与えるかもしれないという懸念もある中で、保全の意味、その効果を前提で共有する方向が必要であろう。また、現在 150 羽とされる放鳥数が、300 羽になると生息域の拡大とともに、観光客のトキとの遭遇チャンスが増大する。その場合には、トキに影響を与えたりするだけではなく、トキ観察時の知識などを観光客が学習する機会を拡大し、ガイドツアーのシステムを設けるなどする必要がある⁵。

第 2 に、佐渡市では、宿泊施設の競争力が弱く、各ホテルの独自性やサービス力が必ずしも十分でない点である。ブランド米であるトキ米や関連する商品、新鮮な水産物などを提供することが必要であろう。県外客が 6 割を占める佐渡では、各宿泊施設が、その独自性を打ち出すための差別化を通じて、個人客への対応を図る必要がある。

第 3 に、観光シーズン以外の目玉がないという点が挙げられる。2 章でも示したように、佐渡は夏の観光客が最も多い。尖閣湾の観光船のように、観光スポットも夏向きであるものが多い。全シーズン観光客が来訪するようにして、観光業の安定化を図り、よりホスピタリティあふれる佐渡の観光業を築き上げることが望ましいと言える。世界遺産の暫定リストに入っている「金山銀山」などの文化資源は、佐渡の歴史、世界史的な位置づけを、地域の人々が共有し、

⁴佐渡市役所農林水産課生物多様性推進室トキ政策係の松本様にお話を聞くことができた。また、北見主任には、補足的に質問にお答えいただいた。感謝申し上げます。お伺いした内容に関して、本論文で考察した点は、あくまで私たちの見解であることをお断りしておく。

⁵西表島では観光客が運転するレンタカーによって、イリオモテヤマネコに被害が出ている。こうした事態を避けるためにも、しっかりした観光客教育が必要になる。

観光客に提供する格好の観光資源である。生物多様性保全を軸に、文化や歴史の保全も合わせることで、佐渡のブランド力はより強固になると考えられる。

インタビュー調査に関して、関連する3点を述べた。佐渡市の積極的な環境保全と観光発展への姿勢が、より有効に具現化するためには、やはり、行政や事業者、住民と併せて、観光客との協働が必要であると感じた。これらの協働を保証する仕組みとして、すでにくいくつかの施策が機能し始めているが、今後さらなる展開が求められる。

4.3 アンケート調査の概要

次に、平成26(2014)年10月29日から11月1日の4日間、両津港乗客待合室(フェリーおよびジェットfoil発着口)で行った佐渡関連調査における佐渡市の観光客アンケートの結果から、問題点を抽出していく⁶。

全サンプル数は139人である。回答者の基本特性としては、男性75人、女性63人、無回答1人。平均年齢が58歳であった。アンケート調査項目は参考資料に掲げている。アンケートの包括表は、表4-1にまとめている。

4.3.1 集計と概要

個別の質問事項で特筆すべき点は以下のようなものである。

- ① まず、観光客特性についてであるが、問3「来訪同伴者」については、家族連れ(31%)や友人(24%)が中心であるものの、一人での来訪者も多い(17%)。問4「どこから来られましたか」については、新潟22.9%のほか、関東(特に東京12.9%、神奈川7.9%)からが多い。問5「来訪回数」については、仕事や帰省客を除くと、半数以上が初めての来訪である。平均は1.4回である。また、問7の「日程」であるが、平均は、1.4泊となった。一泊が最も多く(42.4%)、2泊する人は24.2%、3泊以上の旅行者は2.3%と非常に少ない。
- ② 次に、観光客の環境行動と知識については、問8において、99%の人が「ゴミの分別」について、また86%が「電気の節約」を日常的に行っていると回答した。「エコバックの利用」も77%が行っていると答えており、おおむね環境配慮的な行動が行われている。問9から問11について、7割が自然観光に関心を示しているが、エコツーリズムの用語自体は、40%の認知度であった。アンケート時期の問題もあるが、佐渡観光の旅行目的としては、「文化歴史」「トキ」「自然」「温泉」「飲食」の順で高く、「紅葉狩り」も2割を超えている。旅行目的として「トキ」の割合は34.7%と高いものの、「ト

⁶ アンケート実施に当たっては、佐渡汽船総務課本社統括課の野田様、斎藤様はじめ大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

キ」が真っ先に観光目的となるという状況にない。実際の訪問地（問 13）については、「佐渡金山」の 66%について「トキの森公園・トキ資料展示館」は 58%と大きく、「尖閣湾」（33%）、「宿根木」（23%）と続いている。特定の観光地は、再来訪の誘因としては小さく、「温泉」や「飲食」など再来訪を促す観光資源の開発も必要となると考えられる。

- ③ 観光客の佐渡観光に関するスタンスについてであるが、問 14「佐渡観光の満足度」において、「自然環境」が高く（4.09）、「地元の人のもてなし」（3.99）、「観光名所の魅力」（3.81）、「お土産」（3.66）の順に高い。他方、「佐渡までの交通手段」（3.62）、「料理」（3.6）、「ホテル旅館のサービス」（3.33）、「島内の交通手段」（3.04）、「レストラン」（2.97）の順になっている。とくにこれら下位のケースでは、5割の人が否定的な評価を与えており、佐渡観光の課題を如実に表している。問 15の「再来訪意志」については、7割の観光客はポジティブな回答であったが、否定的な評価も3割に達している。再来訪を拡大させる戦略を考える場合、先の否定的な要素の改善が必要であろう。
- ④ 観光客の佐渡の自然環境の評価については（問 16）、8割の人が積極的な評価を与えている。問 14-⑧における類似の評価も 4.09 と高い評価が出ており、全体的に自然環境の評価は高いといえる。包括的な観光の満足度は 78.8点と高い。佐渡観光にとって重要な要素を問 18 で聞いたが、③の地域資源等を活かした体験型の新たな観光の提案・PRが多かった(47%)。問 21の記述回答欄でも 15名の人が「島外への情報発信の強化」「歴史や文化をもっとPRすべき」「良さをPRできていない」「観光シーズン以外の時期のイベントと見せ所の発案」などが提案されており、佐渡観光については、佐渡PRの発信力が弱いと思っている人が多いと推察される。第二は、①旅館・ホテル・民宿におけるサービスの質の向上（42%）であり、実際にも、宿泊施設の改善を求める声が多く見受けられた。⑥移動交通手段の値下げ（40%）については、島内交通の利便性を高めるとともに、効果的に観光地が回遊できる仕組み、セット料金体系（パスなど）の拡充が必要であろう。
- ⑤ 「トキ」に関する関心は高く、訪問先としても人気であることは理解できる。問 19 は、観光客の「トキ」に関する一般的知識について問うている。「放鳥」や「野生絶滅」という佐渡に関する固有の用語・イベントの認知度は高く、「キン」もおおよそ4割の人が知っていた。それに対して、「分散飼育」、「里山イニシアティブ」、「生物多様性国家戦略」といった関連する一般的な概念についてはあまり認知されていなかった。とはいえ、3割以上の認知があるという点は評価すべきであろう。

4.3.2 クロス集計と分析

アンケートに関して以下のように仮説を立て検討した。

1つ目は、問5の来訪回数の平均より多いグループと、少ないグループに分け、双方の旅の目的に違いが出るのではないかと考えた。これについては、初訪問のグループと再来訪グループで、旅行目的として「自然」($\chi^2=9.058, p=0.003$)、「飲食」($\chi^2=5.098, p=0.024$)に違いがみられた。再来訪時以降、両者を目的とするものが減少する傾向にある。訪れた施設に関しては、両グループで、「佐渡能楽の里」で再来訪者の訪問傾向が強まり($\chi^2=10.554, p=0.001$)、「トキの森公園・トキ資料展示館」では、再来訪者の訪問が弱まる傾向にある($\chi^2=4.063, p=0.044$)。これは、トキの体験が一度の訪問で満足を与えるのに対して、文化体験などでは、反復性のある程度有することを意味している。

2つ目は、問15における再来訪意思を決めるのは問14のどれかが関与しているのではないかと、という点である。とくに、観光名所に高い魅力を感じた人は、再来訪意思が高い傾向にある($\chi^2=9.739, p=0.021$)。また、問12で「飲食」を目的とする観光客は、総じて再来訪意思が高いことから($\chi^2=3.470, p=0.062$)、先の文化資源などと同様に「飲食」の充実がリピーター拡大に貢献すると考えられる。

表 4-1 変数間の相関

すでにみたように、「佐渡の自然環境の評価」に関する問16-1で、80%の人がポジティブな評価を与えている。他方、再来訪意思に関する問15-1で再来訪意思がある人は、70%を占めている。再来訪意思と自然環境の

		Q15-1	Q16-1	Q17
Q15-1	Pearson の相関係数	1	.299*	.292*
	有意確率 (両側)		.010	.016
	度数	75	73	68
Q16-1	Pearson の相関係数	.299*	1	.346**
	有意確率 (両側)	.010		.004
	度数	73	75	68
Q17	Pearson の相関係数	.292*	.346**	1
	有意確率 (両側)	.016	.004	
	度数	68	68	69

*. 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

評価、ならびに包括的満足度については、それぞれ、有意な相関があり (表 4-1 参照)、因果関係を示すものではないとはいえ、佐渡観光にとって、包括的な満足を与える要素として自然環境があり、そこから再来訪意思の向上に結びつくという関係が考えられる。問13における「トキの森公園・トキ資料展示館」への訪問客の多さ(58%)、問12の自然目的、トキ目的の多さ(30%超)、に加えて、佐渡の自然環境に関する評価の高さ(80%)などを総合的に考えると、生物多様性保全が観光にとっていかに重要であるかがわかる。

他方で、佐渡へ再来訪者として訪れた観光客は、すでに述べたように(問 13)、「トキの森公園・トキ資料展示館」などの観光施設には訪れない傾向がある。やはり、観光発展のためにはリピーターを増やすことが必要である。このことを考慮すると、再来訪者向けには、生物多様性の保全に関する観光資源だけでなく、文化に関する観光資源や、ホテル・旅館のサービスやレストランなどで地元ブランド、独自性を打ち出していくなどの必要がある。また、再来訪時における、トキの自然観察チャンスに対して、保全の取り組み、保全への注意など教育上の配慮が求められる。そのためには、ガイドシステムの導入や、わかりやすい個人客向けのガイドブックなどの準備が必要である。

ところで、佐渡では観光客数が平成 3 年の 120 万人をピークに平成 23 年には 55 万人に減少している。現在の佐渡は(バトラーの観光発展のサイクル理論で言えば)観光の衰退段階に位置しており、観光客数は年々減少している。問 12 において、旅行目的が⑥の飲食を選んだ人は、初来訪者が 12.8%、再来訪者が 0%であった。佐渡市における観光再興のためのカギが、少数ではあるが、飲食を目的とする観光客の新たな発掘にあるのではないか。飲食は観光にとって重要な要素であり、地元食材の PR、地図・パンフレット作成、地元食材(トキ米)のホテル・旅館・レストランでの積極的な利用が必要である。

4.4 まとめ

佐渡におけるインタビューならびに観光客アンケートの結果から、以下のような点を指摘できる。まず、観光客は、佐渡の自然環境に対して高い評価を与えている点、さらに、佐渡の来訪地として、トキの森公園・トキ資料展示館を第一に掲げるなど、トキを中心とする生物多様性保全政策が観光に寄与していることが窺える。

そのうえで、あらためて観光客の減少、そしてリピート率の低さといった問題の改善を目指すためには、まず、ツアーガイドシステムの導入や、地元住民の教育以外に、トキ・エコツーリズム認定宿泊施設などを設定し、ガイドブックやビデオの上映などを推進し、観光客へのトキを取り巻く自然環境への保全と理解をさらに推し進めることに加えて、トキ以外の観光資源(宿泊や飲食など)の魅力を高めていく必要がある。また、個別回答ではあるが、比較的高齢の観光客が多いのだが、その中で「孫に買って帰るお土産がないね」という回答があった。観光開発に関して課題の残る点であると考えられる⁷。

第 5 章 まとめと残された課題

⁷ 「飲食」の重要性についてはすでに論じたが、佐渡名物とされている「ぶりかつ丼」を、閉店時間の関係で、食す機会がもてなかったのは残念である。

上記のように、佐渡における現状と課題を主にエコツーリズムと観光という観点からアンケート結果を軸にして問題の指摘、そして解決策の提案を行ってきた。その一方で、アンケート調査を行った時期が閑散期であり、佐渡を訪れる観光客が少なかった点を考慮すると、観光客数がピークとなる時期にも再度調査を行う必要がある。実際、佐渡島は他の地域と比較しても観光客数の季節変動が著しいため、夏季に佐渡を訪れた観光客を再び呼び寄せることが観光発展につながると考えられるからである。これらのことは、今後の課題としたい。

参考文献

- ・ 本田裕子（2009）「放鳥直前期におけるトキ放鳥への住民意識-佐渡市全域のアンケート調査から-」『東京大学農学部演習林報告』121, pp.149-172.
- ・ 本田裕子、林宇一(2009)「放鳥後期におけるトキ放鳥への住民意識-佐渡市全域のアンケート調査から」『山階鳥学会誌』41、pp74-100.
- ・ 井本・岩崎・木戸・鈴木・須田・筒井・森田・藤本（2013）「世界文化遺産と持続可能な観光発展とまちづくり-富岡製糸場をめぐる-」藪田ゼミナール編環境ゼミナール報告論文 mimeo.
- ・ 中村俊彦(1997)「日本の農村生態系の保全と復元 III: 伝統的農村・里山 自然の重要性と保全」国際景観生態学会 日本支部会報 3(4):p57-60
- ・ 佐渡市役所『佐渡市総合計画～基本計画（後期）～』（<http://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/soukei06/10pdf.shtml> 2015/02/10 アクセス）
- ・ 佐渡市企画財政部(2009)『「佐渡市の国際化について」の市民アンケート調査』（http://www.niigata-ia.or.jp/jp/ct/004_siryu/001_siryu/2009_0623_files/Sado_city_Questionnaire.pdf. 2015/02/10 アクセス）
- ・ 朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会「GIAHS トキと共生する佐渡の里山」報告資料（http://www.city.suzu.lg.jp/data/open/cnt/3/685/1/sado_ppt.pdf 2015/02/10 アクセス）
- ・ 佐渡市農林水産課（2012）『トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略』（第2章「佐渡における生物多様性の現状と課題」（https://www.city.sado.niigata.jp/admin/vision/pdf/biodiversity_12/biodiversity12_02.pdf 2015/02/10 アクセス）
- ・ 佐渡市地域振興課『「佐渡準市民」のご案内』（https://www.city.sado.niigata.jp/support_sado/index.html 2015/02/10 アクセス）

<佐渡島観光客アンケート>

**「佐渡における生物多様性とエコツーリズムの展開」
に関するアンケート調査**

中央大学 環境 FLP 藪田ゼミナール・公共政策研究室では、『佐渡における生物多様性とエコツーリズムの展開』についての研究を行っています。この研究は、2014年度佐渡市生物多様性学術研究等奨励補助金の補助を受けて行っている研究の一環です。今回、佐渡市に來訪された観光客の皆様方に、アンケートのご協力をお願いしております。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。なお、このアンケート結果は、すべて統計的に処理しますので、個人の回答内容が研究の目的以外に使われることはありません。

中央大学 環境 FLP 藪田ゼミナール代表

法学部 2年 加藤成貴

連絡先：yabuta@tamacc.chuo-u.ac.jp 042-674-3386(研究室)

1. 性別をお答えください。

性別 (1. 男性 ・ 2. 女性)

2. 年齢をお答えください。

() 歳

3. 今回はどなたと一緒に来られましたか？

1. 家族	2. 友人	3. 恋人
4. 団体ツアー	5. 一人	6. その他 ()

4. どこから来られましたか？

() 都・道・ () 市・町・
府・県 村

5. 今回の来訪は何回目ですか

() 回目

6. 今回のご旅行のご予算について

佐渡島までの全行程の交通費 () 円 佐渡島内での支出 () 円

7. 今回のご旅行について、佐渡島内でのご旅行の日程について

() 泊

8. 普段のあなた環境についての関心や行動について

ごみの分別	①常にやっている ②やっている ③どちらでもない ④やっていない ⑤全くやっていない
電気の節約	①常にやっている ②やっている ③どちらでもない ④やっていない ⑤全くやっていない

エコバックの利用	① 常にやっている ② やっている ③ どちらでもない ④ やっていない ⑤ 全くやっていない
----------	--

9. 普段のあなたの観光についての関心や行動について

自然観光と文化鑑賞では、どちらかというと	① 自然観光 ② 文化鑑賞 ③ どちらでもない
----------------------	-------------------------

10. 観光にはよく出かけていますか。

① よく出かけている ② 時々出かけている ③ どちらともいえない ④ あまり出かけない ⑤ まったく出かけない

11. エコツーリズムやグリーンツーリズムなどの環境に配慮した観光についてご存知ですか。

① よく知っている ② 知っている ③ どちらでもない ④ あまり知らない ⑤ まったく知らない

12. 今回の旅の目的は何ですか。(複数回答)

① 文化・歴史 ② 自然 ③ トキ ④ 登山 ⑤ マリンスポーツ ⑥ 飲食 ⑦ 温泉 ⑧ 祭り ⑨ その他 ()
--

13. 今回訪れた観光施設をお聞かせください。(複数回答)

① 佐渡能楽の里	② はじき野フィールドパーク	③ 西三川ゴールドパーク
④ 佐渡歴史伝説館	⑤ 佐渡奉行所	⑥ 尖閣湾揚島遊園
⑦ 佐渡金山	⑧ 佐渡文弥人形芝居 上演間	⑨ 姫崎灯台
⑩ トキの森公園・トキ資料展 示館	⑪ 城の山公園展望台	⑫ 宿根木の町並み
⑬ 郷土館・博物館	⑭ 海水浴場	⑮ 体験学習(鬼太鼓教室、 おけさ踊り教室など)
⑯ その他 ()		

14. 佐渡に来訪して感じたことについて

佐渡までの交通手段	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
観光名所	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
ホテル旅館	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
レストラン	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
料理	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
島内の交通手段	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
トイレ	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
自然環境	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い
人々のホスピタリティ	① 大変良い ② よい ③ どちらでもない ④ 悪い ⑤ 大変悪い

お土産	①大変良い ②よい ③どちらでもない ④悪い ⑤大変悪い
-----	------------------------------

15. 佐渡島にまた訪れたいと思いますか。

①必ず訪れたい ②また訪れたい ③どちらでもない ④あまり来たくない ⑤再び来たいとは思わない

16. 佐渡島の自然環境についてどう思われましたか。

①非常によく守られている ②よく守られている ③どちらでもない
④あまり守られていない ⑤まったく守られていない

17. あなたにとって佐渡島のイメージはどのようなものですか。お考えのキャッチフレーズをお聞かせ下さい。

佐渡といえば・・・()

(例) 新潟県、自然、などとお答えください。

18. 最後にお聞きします。佐渡島のより良い観光についてご意見があればご自由にお書き下さい。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

問	内容	サンプル数	結果	問	内容	サンプル数	結果
問1 性別	男性	76	54.68%	問14-1	佐渡までの交通手段		3.62
	女性	63	45.32%		① 大変良い	30	22.39%
問2 年齢	平均年齢	57.5歳			② 良い	55	41.04%
問3 来訪形態	家族	42	30.43%		③ どちらでもない	23	17.16%
	友人	33	23.91%		④ 悪い	21	15.67%
	恋人	1	0.72%		⑤ 大変悪い	4	2.99%
	団体ツアー	15	10.87%	問14-2	観光名所の魅力度		3.81
	個人	23	16.67%		① 大変良い	32	24.81%
	その他	24	17.39%		② 良い	66	51.16%
問5	来訪回数	8.3回			③ どちらでもない	24	18.60%
	問12-9,12を除いた平均訪問回数	1.4回			④ 悪い	7	5.43%
問6-1	佐渡までの平均交通費		¥27,938		⑤ 大変悪い	0	0.00%
	① -5000円	3	2.50%	問14-3	ホテル旅館のサービス		3.33
	② 5000円-10000円	18	15.00%		① 大変良い	20	16.81%
	③ 10000円-30000円	52	43.33%		② 良い	55	46.22%
	④ 30000円-50000円	18	15.00%		③ どちらでもない	40	33.61%
	⑤ 50000円-	29	24.17%		④ 悪い	3	2.52%
問6-2	佐渡島内での平均支出額		¥24,658		⑤ 大変悪い	0	0.00%
	① -5000円	16	13.68%	問14-4	レストラン		2.97
	② 5000円-10000円	14	11.97%		① 大変良い	9	7.63%
	③ 10000円-30000円	47	40.17%		② 良い	42	35.59%
	④ 30000円-50000円	20	17.09%		③ どちらでもない	53	44.92%
	⑤ 50000円-	20	17.09%		④ 悪い	13	11.02%
問7 宿泊	旅行日程(泊)	1.4			⑤ 大変悪い	0	0.00%
	(異常値を除いた場合)	1.23		問14-5	料理		3.60
問8	日常の環境配慮行動				① 大変良い	30	24.39%
問8-1	ゴミの分別				② 良い	57	46.34%
	① 常にやってる	99	74.44%		③ どちらでもない	33	26.83%
	② やってる	33	24.81%		④ 悪い	3	2.44%
	③ どちらでもない	1	0.75%		⑤ 大変悪い	0	0.00%
	④ やってない	0	0.00%	問14-6	島内の交通手段		3.04
	⑤ 全くやってない	0	0.00%		① 大変良い	18	14.29%
問8-2	電気の節約				② 良い	38	30.16%
	① 常にやっている	62	46.97%		③ どちらでもない	33	26.19%
	② やっている	53	40.15%		④ 悪い	31	24.60%
	③ どちらでもない	14	10.61%		⑤ 大変悪い	4	3.17%
	④ やってない	2	1.52%	問14-7	トイレ(数、清潔度)		3.64
	⑤ 全くやってない	1	0.76%		① 大変良い	23	17.69%
問8-3	エコバックの利用				② 良い	58	44.62%
	① 常にやっている	65	49.24%		③ どちらでもない	43	33.08%
	② やってる	37	28.03%		④ 悪い	5	3.85%
	③ どちらでもない	12	9.09%		⑤ 大変悪い	2	1.54%
	④ やってない	13	9.85%	問14-8	自然環境		4.09
	⑤ 全くやってない	5	3.79%		① 大変良い	44	34.11%
問9	観光についての関心				② 良い	74	57.36%
	① 自然	88	68.22%		③ どちらでもない	10	7.75%
	② 文化	23	17.83%		④ 悪い	1	0.78%
	③ どちらでもない	18	13.95%		⑤ 大変悪い	0	0.00%
問10	観光の嗜好			問14-9	地元の人のもてなし		3.99
	① よく	42	30.88%		① 大変良い	44	34.65%
	② 時々	70	51.47%		② 良い	66	51.97%
	③ どちらでもない	13	9.56%		③ どちらでもない	17	13.39%
	④ あまり	10	7.35%		④ 悪い	0	0.00%
	⑤ まったく	1	0.74%		⑤ 大変悪い	0	0.00%
問11	エコツーリズム等の認知			問14-10	お土産		3.66
	① よく	15	11.19%		① 大変良い	16	12.21%
	② 知っている	39	29.10%		② 良い	69	52.67%
	③ どちらでもない	13	9.70%		③ どちらでもない	43	32.82%
	④ あまり	42	31.34%		④ 悪い	3	2.29%
	⑤ まったく	25	18.66%		⑤ 大変悪い	0	0.00%
問12	旅行目的			問15-1	再来訪意思		3.70
	① 文化・歴史	50	36.23%		① とてもそう思う	23	17.56%
	② 自然	44	31.88%		② そう思う	69	52.67%
	③ トキ	48	34.78%		③ どちらでもない	27	20.61%
	④ 登山	9	6.52%		④ あまり思わない	12	9.16%
	⑤ マリンスポーツ	9	6.52%		⑤ 全く思わない	0	0.00%
	⑥ 飲食	19	13.77%	問16-1	佐渡の自然環境評価		4.02
	⑦ 温泉	32	23.19%		① 非常に良く守られている	26	20.31%
	⑧ 祭り	10	7.25%		② よく守られている	79	61.72%
	⑨ 帰省	16	11.59%		③ どちらでもない	22	17.19%
	⑩ 鼓童などのコンサート	10	7.25%		④ あまり守られてない	1	0.78%
	⑪ 紅葉狩り	28	20.29%		⑤ 全く守られてない	0	0.00%
	⑫ その他	46	33.33%	問16-2	16-1の理由		
問13	訪れた観光施設				① ごみ対策	30	22.56%
	① 佐渡能楽の里	12	8.70%		② 観光施設の環境配慮	30	22.56%
	② 海水浴場・キャンプ	6	4.35%		③ 自然景観の保全	78	58.65%
	③ 西三川ゴールドパーク	19	13.77%		④ 環境配慮製品	4	3.01%
	④ 佐渡歴史伝統館	26	18.84%		⑤ 野生動植物への配慮	44	33.08%
	⑤ 佐渡奉行所	14	10.14%		⑥ その他	11	8.27%
	⑥ 尖閣湾	46	33.33%	問17	佐渡観光の包括的満足度	78.8	
	⑦ 佐渡金山	91	65.94%	問18	佐渡観光に重要なこと		
	⑧ 佐渡文弥人形芝居上演館	3	2.17%		① 宿泊施設のサービス	52	41.94%
	⑨ 姫崎灯台	8	5.80%		② 小人数旅行への配慮	35	28.23%
	⑩ キの森公園・トキ資料展示館	80	57.97%		③ 体験型観光の提案PR	58	46.77%
	⑪ 城の山公園展望台	6	4.35%		④ 島内清掃と整備	19	15.32%
	⑫ 宿根木のまち並み	31	22.46%		⑤ 観光配慮型の観光	40	32.26%
	⑬ 郷土館・博物館	12	8.70%		⑥ 交通費の値下げ	49	39.52%
	⑭ 鬼太鼓・おけさ踊り教室など	13	9.42%	問19	トキに関する知識		
	⑮ その他	29	21.01%		① ニッポニアニッポン	64	48.48%
					② 放鳥	71	53.79%
					③ 野生絶滅	92	69.70%
					④ 生物多様性国家戦略	46	34.85%
					⑤ 里山イニシアチブ	44	33.33%
					⑥ 天然記念物	84	63.64%
					⑦ キン	51	38.64%
					⑧ 分散飼育	41	31.06%

＜佐渡島観光客アンケート 総括表 表4-1＞